

# 第1号 研修視察報告書

平成 26 年 4 月 15 日

岡山県議会議員 波多 洋治 (印)

視察の概要は次の通りでした。

## 1, 視察場所

### (1)フィンランド(ヘルシンキ)

- ①ビジットヘルシンキ事務所(ヘルシンキ観光局)
- ②アクティブ・ライフ・ヴィレッジ社(福祉機器提供会社)
- ③スオメンリンナの要塞(世界文化遺産)

### (2)スウェーデン(ストックホルム)

- ④ストックホルム県ナッカ市
- ⑤高齢者介護施設「ベルグスンドス医療介護住宅」
- ⑥スウェーデン クオリティケア株式会社
- ⑦国会議事堂 スtockホルム市庁舎
- ⑧森の墓地(世界文化遺産)

### (3)ノルウェー(オスロ)

- ⑨平和施設研修 ノーベル平和センター・原爆記念碑
- ⑩オスロ市庁舎

### (4)イギリス(ロンドン)

- ⑪テムズ川ウォーターフロント再開発整備
- ⑫クライシスロンドン(ホームレス救援組織)

## 2, 視察期間

- |                  |           |           |
|------------------|-----------|-----------|
| ①フィンランド(ヘルシンキ)   | 3/3(日)    | ～25(火) 午前 |
| ②スウェーデン(ストックホルム) | 3/25(火)午後 | ～27(木) 午前 |
| ③ノルウェー(オスロ)      | 3/27(木)午後 | ～29(土) 午前 |
| ④イギリス(ロンドン)      | 3/29(月)午前 | ～31(月) 午前 |

## 3, 宿泊ホテル

- ①ヘルシンキ-----ラディソン・ブル・ロイヤルヘルシンキ
- ②ストックホルム-----クラリオン・ホテル・ストックホルム
- ③オスロ-----ラディソン・ブル・プラザ
- ④ロンドン-----クラリオン チャリングクロス ホテル

# 報告事項

## ①ビジットヘルシンキ事務所(ヘルシンキ観光局)

○高負担・高福祉の国の一つ

○出来るかぎり住宅で、もしくは高齢期における住宅で暮らし続けられるシステムの模索とその場の整備に焦点が当てられている。特に介護施設に替わるものとして、住宅に介護やその他サービスを付加させたサービスハウスがその中心となる。

○その中では民間NPOによるサービス提供。運営が多いことも特徴である。

○制度上、施設を廃止し、住宅政策の中で高齢者ケアを位置づけきたスウェーデンやデンマークとは異なり、施設という制度上の枠組みを残しながらサービスハウスなどの整備を進めてきた点が、日本の状況に近い。

◆ヘルシンキ観光局対応の専門官(非正規職員)から詳細説明を受ける。

◇人口550万人、65歳以上国民年金受給者13%

◇高齢化寿命一年々高くなる 男 76歳 女 82歳

◇国民的病気ー糖尿病患者 50万人

◇精神的病気が増加 麻薬の目的外使用等により高齢者の精神的病気の問題も発生

◇フィンランドー5地区編成⇒1地区人口100万人程度ー5つの大学病院の責任ー全国均等に医療

◇国の責任ー福祉第一⇒健康福祉の予防的推進ー病気にならないことが1番の福祉

◇小児科指導医制度ー生まれた赤ちゃんの死亡率世界ワースト1

◇従来高齢者の検診が優先され、今まで子どもの検診が不行届き

◇高齢者介護サービス⇒地方自治体が世話をする

◇フィンランドの医療を受ける権利⇒どこにあっても個人の意志

◇高齢者医療 いつ始まるか、いつ終わるか⇒期間が長くなってはいけ  
ない、費用は高くなってはいけ

◇1000人ー2.9人の医者、11人ナース

◇福祉制度確立に10年間要した

## ②アクティブ・ライフ・ヴィレッジ社(福祉機器提供会社)

○スマートエージングテクノロジーを提供する会社

- ヘルシンキから西へ車で約30分、エスポー市に位置する
- 高齢者がケアホームや自宅で快適に過ごせるように、痴呆や睡眠障害などに対応できるような機器を亭起用している会社
- 機器の開発は、認知症、睡眠障害、移動が困難な人々、また健康問題にかかわるその他高齢化の役に立つことを目的としている
- アクティブ・ライフ・ヴィレッジ社は福祉事業の革新のきっかけとして働き、利用者、サービス・テクノロジー会社、地域社会、第三者機関と協力しています
- アクティブ・ライフ・ヴィレッジ社はエスポー市、アールト大学とラウレア応用科学大学によって、2008年に設立された

### ③スオメンリンナの要塞(世界文化遺産)

- スオメンリンナの要塞は、フィンランドの首都ヘルシンキ市内の6つの島の上に建造された海防要塞。ユネスコの世界遺産に登録されており、観光客のみならず、地元民にとっても、美しい行楽地として人気がある。当初の名前はスヴェアポリ(スウェーデンの要塞)だったが、1918年に愛国主義的な理由からスオメンリンナ(スオミの城塞)と呼ばれた。これは星形要塞の一例である。
- このスオメンリンナ島は、1748年にスウェーデン・フィンランドによって、ロシア帝国に対する守りを目的として要塞の建造に着手した。総責任者に任命されたのは、オーガスティンであり、その当初案には当代きっての築城の名手ヴォーバンの思想の強い影響が見られた。
- 島の要塞自体に加えて、本土の臨海要塞群が足がかりとなる海岸堡を築けないようにしていた。また、計画には駐留スウェーデン海軍とフィンランド分遣隊全体の軍需品の備蓄も盛り込まれていた。フィンランド戦争中の1809年5月3日に要塞はロシア軍に占領され、1809年のロシア軍によるフィンランド占領の足がかりとなった。この時には、実害がほとんどなかったが1855年のクリミア戦争の時には、イギリス海軍とフランス海軍による艦隊の艦砲射撃で損害を被った。1973年に民政下に置かれ、1991年に世界遺産に登録された。

(以下 第2号へ続く)